

令和7年3月作成

本巢市 洪水 ハザードマップ



お問い合わせ先



本巢市
Motosu City

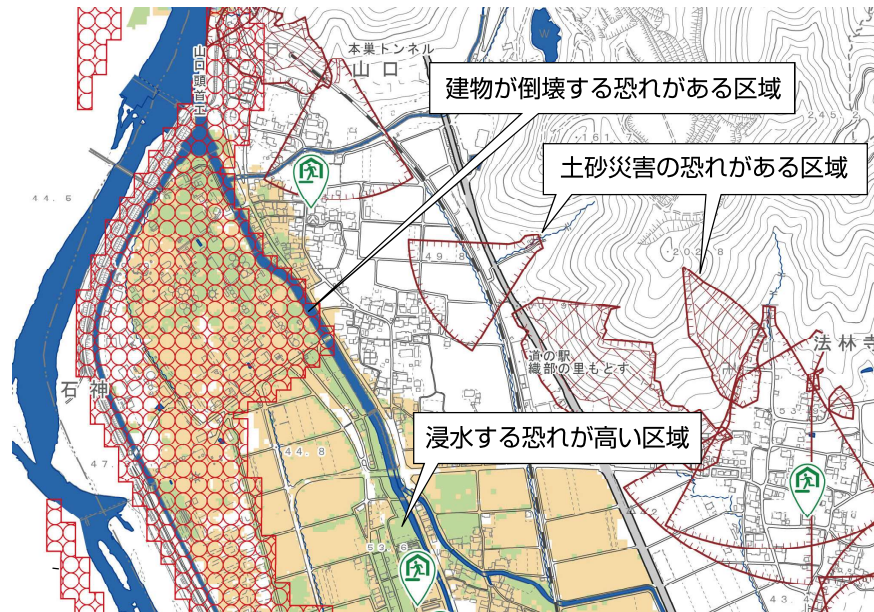
総務課

〒501-0491
本巢市早野 255 番地
TEL : 058-323-5191

監修：岐阜大学 教授 高木朗義

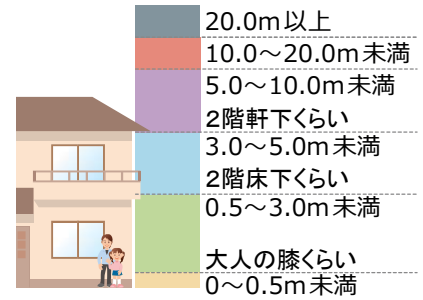
洪水ハザードマップについて

洪水ハザードマップの見方



●水害

洪水浸水想定区域（浸水する深さ）



家屋倒壊等氾濫想定区域

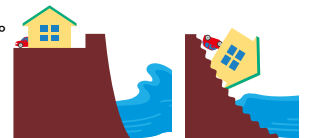
●氾濫流

流速が早いので、木造家屋は倒壊する恐れがあります。



●河岸侵食

地面が削られ家屋は建物ごと崩落する恐れがあります。



●土砂災害

●土砂災害警戒区域

土砂災害の恐れがある区域

●土砂災害特別警戒区域

建造物に損壊が生じ、住民等の生命又は身体に著しい危害が生じる恐れがある区域

避難情報と行動の種類を知ろう

次の手順にしたがって、自分の避難先（安全な場所）と避難経路をきめ、自分だけの「避難マップ」を作成しよう。

1 自宅が安全か確認しましょう。

- ・自宅に「○」をつけましょう。
- ・地図の着色を見て、土砂災害や水害がどの程度危険か確認しましょう。

このハザードマップは、Web で公開を行っています。ご自宅のパソコンやスマートフォンで、見たい地域や範囲を手軽に見たり、印刷することができます。右記の QR コードからご利用ください。



2 自分や家族を守るのに必要となる避難先をきめましょう。

- ・自宅が安全が確保できない場合、ハザードマップで土砂災害や水害の危険が無い、もしくは危険が少ない避難先を選び「◎」をつけましょう。

3 一緒に避難する方の自宅を確認しましょう。

- ・声を掛ける方や友人、知人、高齢者、身体の不自由な方など、一緒に避難する必要がある方の自宅等に「△」をつけましょう。

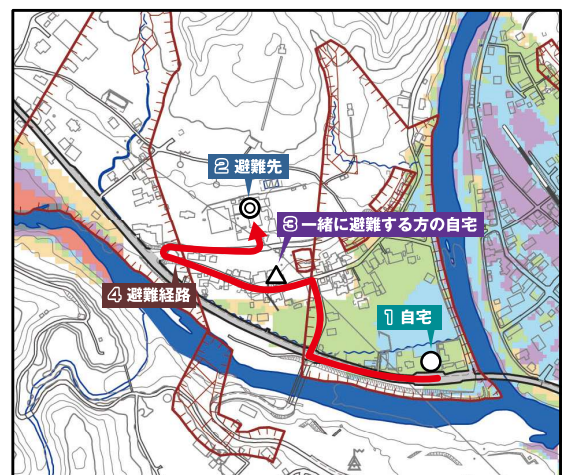
4 安全な避難経路を確認しましょう。

- ・自宅から、一緒に避難する必要がある方の自宅等を経由して、避難先まで行く道順を「→」で記入しましょう。

●次のような危険箇所がないかチェックして、安全なルートを見つけておきましょう。歩いて確認しておくとも効果的です。

□冠水しやすい道路 □高齢者らが避難しづらい坂道や階段 □蓋のない側溝 □土砂崩れが起きそうな場所 □川の近くのルート □倒れそうなブロック塀や建物

●どうしても避難経路が危険箇所を通ることになってしまう時は、身動きがとれなくなる前に、早め早めの避難を心がけましょう。



あなたがとるべき避難行動は？（避難行動判定フロー）

ハザードマップは浸水や土砂災害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。災害の危険性が高まった時は、自分や家族の命を守るよう、事前に自宅や周辺の危険箇所ととるべき行動を確認しておきましょう。
※着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。



自宅がある場所に、ハザードマップで色が塗られていますか？

いいえ
→

自宅に留まり安全を確保する（屋内安全確保）

※色が塗られていなくても、周り比べて低い土地や崖のそばなどにお住まいの方は、市からの情報を参考に、必要に応じて避難しましょう。

★土砂災害（特別）警戒区域に入っている場合は、立ち退き避難を優先

はい
↓

災害の危険があるため、原則として自宅の外に避難が必要です。

↓

自身または一緒に避難する人は、避難に時間がかかりますか？

はい
↓

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい
↓

警戒レベル3 高齢者等避難が出たら親戚宅や知人宅などに避難

いいえ
↓

警戒レベル3 高齢者等避難が出たら避難所に避難

いいえ
↓

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい
↓

警戒レベル4 避難指示が出たら親戚宅や知人宅などに避難

いいえ
↓

警戒レベル4 避難指示が出たら避難所に避難

※地域の公民館や集会所を避難先としている場合もあります。地元の自治会長へ確認しましょう。

小・中・義務教育学校、公民館に行くことだけが避難ではありません。【避難】とは【難】を【避】けること、下の4つの行動があります

市が指定した避難所への立退き避難

自ら携行するもの
・マスク
・消毒液
・体温計
など



安全な親戚・知人宅への立退き避難

普段から災害時に避難することを相談しておきましょう。



安全なホテル・旅館への立退き避難

通常は宿泊料が必要です。事前に予約・確認しましょう。

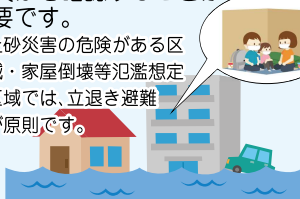


事前にどう行動するか決めておきましょう

屋内安全確保

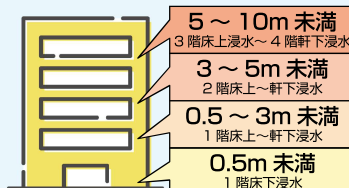
ハザードマップなどで「2つの条件」を確認し自宅にいても大丈夫を確認することが必要です。

※土砂災害の危険がある区域・家屋倒壊等氾濫想定区域では、立退き避難が原則です。



「2つの条件」が確認できれば浸水の危険があっても自宅で安全を確保することも可能です

① 浸水深よりも居室は高い



② 水がひくまで我慢でき、

水・食料などの備えが十分
水、食料、薬などの確保が困難になるほか、電気、ガス、水道、トイレなどの使用ができなくなる恐れがあります。



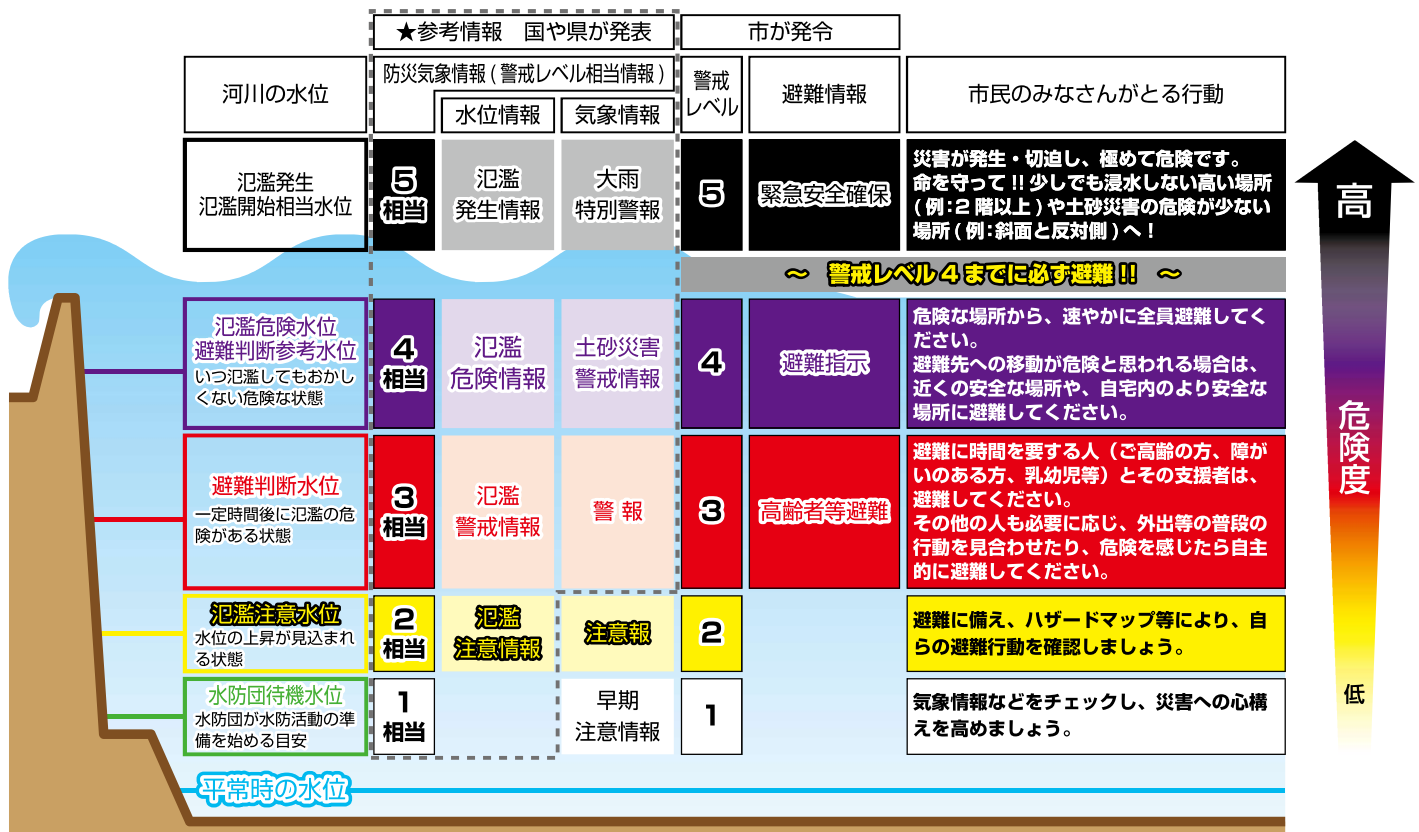
CHECK?



- ・浸水以外の危険（土砂災害など）な区域も確認し、避難行動を検討しましょう。
- ・安全な場所にいる人でも、周りの状況を確認して、避難しましょう。
- ・大雨の時や浸水してから避難は危険です。気象情報や避難情報をもとに、早めの避難を心がけましょう。



避難情報と行動の種類を知ろう



※自分の命を守れるのは自分自身です。市からの避難情報を待たず、早めに避難してください。
※天気は急変するため、避難情報は、警戒レベル 1 ～ 5 の順番で発令されるとは限りません。

情報を収集しよう

本巣市は、次の流れ図に従い、情報の伝達を行います。

河川情報 (岐阜県)

ホームページ

気象情報 (気象庁)

テレビ・ラジオ・緊急速報メール

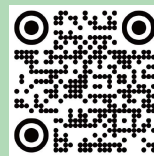
避難情報 (本巣市)

テレビ・防災行政無線・広報車
もとメール・LINE・電子メール

市民のみなさん

情報を入手しましょう!!

本巣市 HP
(情報全般)



本巣市
Facebook



本巣市
X (旧 Twitter)



気象庁 HP
(気象情報、キキクル)



国土交通省
木曽川上流河川事務所



岐阜県総合防災ポータル
(避難情報、避難所開設状況)



「もとメール」に登録することで本巣市からの情報を受け取ることができます。

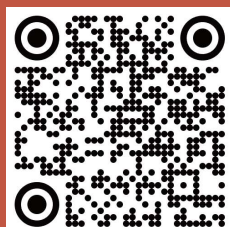
iPhone アプリ版



Android アプリ版



LINE・メール版



ぎふ土砂災害警戒情報ポータル
(土砂災害の危険度判定)



岐阜県川の防災情報
(河川の水位、雨量)



災害の危険がある区域を知ろう

●土砂災害

この土砂災害（特別）警戒区域は、土砂災害により被害の恐れのある箇所の地形や土地利用状況などの基礎調査を基に県が指定した区域を表示しています。

土砂災害特別警戒区域（通称：レッドゾーン）

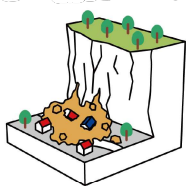
土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ住民の生命又は身体に著しい危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、自治体の開発行為の制限や居室を有する建築物の構造が規制される土地の区域です。

土砂災害警戒区域（通称：イエローゾーン）

土砂災害が発生した場合、住民の生命又は身体に危害が生ずるおそれがあると認められる土地の区域で、警戒避難体制を特に整備すべき土地の区域です。

土砂災害の種類と前兆現象

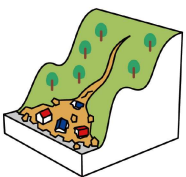
がけ崩れ（急傾斜地の崩壊）



雨などの影響によって、土の抵抗力が弱まり、急激に斜面が崩れ落ちる現象。ひとたび人家を襲うと逃げ遅れる人も多く、死者の割合も高い。

- 前兆現象**
- ・ がけから小石がパラパラと落ちてくる
 - ・ がけにひび割れが見える
 - ・ がけから水がわき出ている

土石流

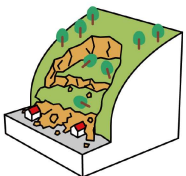


山腹や溪床を構成する土砂石礫の一部が雨などによって水と一体となり、一気に下流へ押し流される現象。

流速 20 ～ 40km/h で一瞬のうちに人家などを壊滅させてしまう。

- 前兆現象**
- ・ 雨が降り続けているのに川の水位が下がる
 - ・ 急に川の流れが濁り流木が混ざっている
 - ・ 山なりがする

地すべり



斜面の土塊が地下水などの影響により、すべり面に沿ってゆっくりと斜面下方へ移動する現象。一般的に広範囲におよび移動土塊量が大さいため甚大な被害をおよぼす可能性が高い。

- 前兆現象**
- ・ 沢や井戸の水が濁る
 - ・ 地面にひび割れができる
 - ・ 斜面から水がふき出す

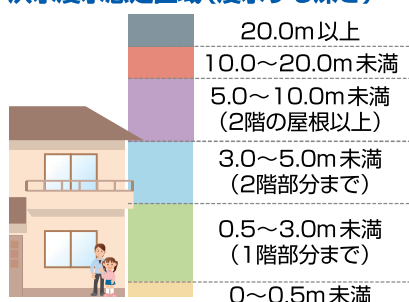
雨が上がった後も注意

地すべりは地下に水がしみ込んで起こるため、雨が上がった後に発生する事があります。地すべりが起こりやすい所に住む方は、雨が上がった後も注意しましょう。

●水害

この洪水浸水想定区域は、令和5年2月に岐阜県より公表された洪水浸水想定区域図・水害危険情報図を基に、**想定し得る最大規模の降雨**を前提とした河川ごとの浸水データを重ね合わせ、複数河川の洪水浸水想定区域が重なる区域においては、被害想定 of 最大値にて合成して作成した洪水浸水想定区域に避難所等の情報を重ね合わせて作成したものです。

洪水浸水想定区域（浸水する深さ）



自宅の高さに応じて
区域外への避難が必要です。

家屋倒壊等氾濫想定区域

（早期に区域外へ避難が必要です。）

●氾濫流

流速が早い場合、木造家屋は倒壊する恐れがあります。



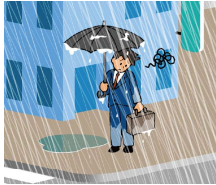
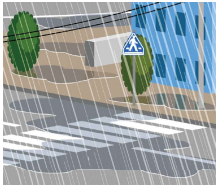
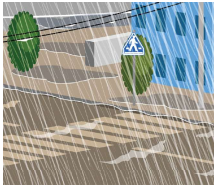
●河岸侵食

地面が削られ家屋は建物ごと崩落する恐れがあります。



雨の降り方と風の吹き方

雨の強さと降り方

雨の強さ	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量	10～20mm	20～30mm	30～50mm	50～80mm	80mm以上
人の受けるイメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る（ゴーゴーと降り続く）	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる 	傘をさしていてもぬれる 		傘は全く役に立たなくなる 	
屋外の様子	地面一面に水たまりができる 		道路が川になる 	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる 	

※イラスト「気象庁提供」

風の強さと吹き方

風の強さ	やや強い風	強い風	非常に強い風		猛烈な風		
平均風速 およそその時速	10～15m/s ～約50km/h	15～20m/s ～約70km/h	20～25m/s ～約90km/h	25～30m/s ～約110km/h	30～35m/s ～約125km/h	35～40m/s ～約140km/h	40m/s以上 約140km/h～
人への影響	風に向かって歩けにくくなる 傘がさせない 	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る 高所での作業はきわめて危険 	何かにつかまっていないと立っていられない 飛来物によって負傷するおそれがある 	屋外での行動は極めて危険 			
屋外・樹木の様子	樹木全体が揺れ始める 電線が揺れ始める 	電線が鳴り始める 看板やトタン板が外れ始める 	細い木の幹が折れたり、根の張っていない木が倒れ始める 看板が落下・飛散する 道路標識が傾く 		多くの樹木が倒れる 電柱や街灯が倒れるものがある ブロック壁で倒壊するものがある 		

※イラスト「気象庁提供」

記録的短時間大雨情報

この情報が発表されたときは、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながるような猛烈な雨が降っていることを意味します。実際にどこで災害発生の危険度が高まっているかは、気象庁HPの「防災情報」から「危険度分布」で確認してください。

わが家の防災メモ

乳幼児や高齢者は1人では避難できません。一緒に避難する人、持ち物、避難にかかる時間を書き出してみましょう。記載する内容は状況によって変わります。家族みんなで、いろいろな状況を想定して考えてみましょう。

1. 誰と避難する？

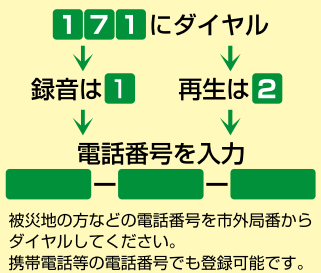
家族はもちろん、近所の方、体の不自由な方など一緒に避難する人の名前と連絡先を記入しましょう。

名 前	連 絡 先	避 難 先

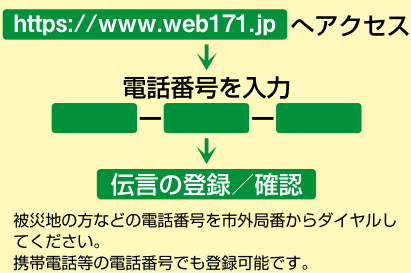
NTT や携帯会社が災害発生時に提供する、被災地内の安否等の情報を音声で録音、再生する「災害伝言ダイヤル」を活用しましょう。QR コードのリンク先で詳しい内容を確認できます。



災害用伝言ダイヤル 171



災害用伝言板 Web 171



体験利用

災害時以外にも、以下の日程で体験利用が可能です。いつでも利用できるように家族・親戚・友人間で体験してみましょう。

- ・毎月1日及び15日 00:00～24:00
- ・正月三日
(1月1日 00:00～1月3日 24:00)
- ・防災週間
(8月30日 9:00～9月5日 17:00)
- ・防災とボランティア週間
(1月15日 9:00～1月21日 17:00)

2. 何を持って避難する？

避難生活に必要なものを記入します。大きさ、重さなど、本当に持てるかを事前に確認します。避難の際に両手が使えるよう、リュックなど背負えるものに準備しましょう。

家で備えておくもの

- ☐ 飲料水
1日1人3リットルを目安
- ☐ 食料品
レトルト食品、アルファ化米、缶詰、インスタントラーメン、お菓子、バランス栄養食など
※乳児がいる家庭は、粉ミルク、離乳食など
- ☐ 衛生用品
ティッシュペーパー、ウェットティッシュ、救急箱、マスク、生理用品、携帯トイレ、体温計、除菌スプレーなど
※乳児がいる家庭は、紙おむつ、お尻ふきなど
- ☐ 生活用品
マッチ、ろうそく、カセットコンロ、給水用ポリタンク、懐中電灯、乾電池、軍手、ゴミ袋など

推奨：1週間
最低：3日分

非常用持ち出し品

- ☐ 飲料水
- ☐ 非常食
カップ麺、缶詰など
- ☐ 貴重品
現金(小銭を多めに)、預金通帳、印鑑、保険証・免許証のコピー
- ☐ 衛生用品
救急箱、薬、マスク、ウェットティッシュ、替えの下着、生理用品など
- ☐ 生活用品
懐中電灯、ラジオ、タオル、寝袋、乾電池、携帯電話の充電器、ヘルメット、雨具など
※季節により、カイロ、蚊取り線香など



POINT ローリングストック

普段自宅で利用しているものを少し多めに買い置きしておき、賞味期限を考えて古いものから消費し、消費した分を買い足す方法を活用しよう。

消費する (Consuming) / 補充する (Replenishing)

名 前		必要量	名 前		必要量
生活用品	☐ 着替え(下着含む)		救急と衛生	☐ 包帯、テープ、ガーゼ	
	☐ 携帯・簡易トイレ			☐ 紙おむつ(幼児用、高齢者用など)	
	☐ 毛布、寝袋			☐ 生理用品	
	☐ トイレットペーパー			☐ 常備薬・服用している薬	
	☐ タオル		便利品	☐ ヘルメット・防災ずきん	
	☐ ティッシュ、ウェットティッシュ			☐ 懐中電灯(予備電池)	
	☐ ビニール袋			☐ 軍手	
	☐ 筆記用具・メモができるもの			☐ 笛やブザー(居場所を知らせるもの)	
	☐ 消毒用アルコール		貴重品	☐ 免許証等の身分証のコピー	
	☐ 洗面用具(歯ブラシ・歯磨き粉)			☐ 健康保険証のコピー、お薬手帳のコピー	
非常食料	☐ 粉ミルク・哺乳瓶(幼児用)			☐ 現金	
	1週間分×人数分用意する			☐ 権利証書のコピー	
情報収集	☐ 飲料水(1日3リットルが目安)		その他	その他に必要なものを書き込みましょう	
	☐ 食料(米、即席麺、缶詰、レトルト食品など)			☐	
機器	☐ 携帯電話(充電器含む)			☐	
	☐ 携帯ラジオ			☐	

3. 避難するときは

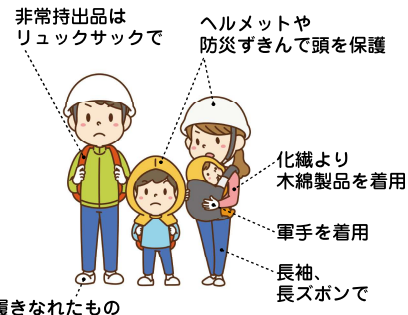
避難の心得

- ① 火元を確かめ、ブレーカーも切る。
- ② 荷物は最小限に。
- ③ 外出中の家族には連絡メモを。
- ④ 避難は基本的に徒歩で。
- ⑤ お年寄りや子どもの手はしっかり握って。
- ⑥ 隣近所に声をかけあって、早めの行動。
- ⑦ 避難先へ移動するとき、狭い道、塀ざわ、川べりなどは避ける。
- ⑧ 避難は事前に決めた避難先へ。

避難するときの服装

避難するときは混乱防止のため決められたルールと秩序を守り、お互いに協力し合うことが大切です。とくに乳幼児、高齢者、病人、身体の不自由な人を安全に避難させるために日頃から十分な対策を立てておきましょう。

また、災害時に車やオートバイで避難すると、避難先やその周辺が車で混雑し、かえって避難が遅くなります。救護活動もできなくなってしまうので、なるべくやめましょう。



4. 避難に必要な時間は？

A 安全な場所まで片道（通常時）

荷物を持って避難することを考えてください

徒歩で 	分	車で 	分
---	---	--	---

B 安全な場所まで片道（豪雨時）

荷物を持って避難することを考えてください

徒歩で 	分	車で  使用不可
---	---	---

E 避難を決断してから安全な場所まで

避難時間を合計し、避難開始のタイミングを決めるのに使用します

徒歩で (A+C+D)	分	車で (A+C+D)	分	豪雨時で (B+C+D)	分
-------------	---	------------	---	--------------	---

C 避難を決断してから家を出るまで

身支度などの時間も含めます

分

D 要支援者を支援するのに

一緒に避難する方の自宅に立ち寄り、支援する時間です

分

5. 避難のタイミング

基本は、早め早めの避難です。避難にはさまざまなパターンがあり、外に出るより自宅にいる方が安全な場合もあります。いつ避難を開始し、いつまでに完了するか、どこから情報を得るか等家族で決めて必要な内容を書き込みましょう。

気象情報	注意報	警 報	土砂災害警戒情報	大雨特別警報
水位情報	氾濫注意情報	氾濫警戒情報	氾濫危険情報	氾濫発生情報
避難情報		レベル3（時間がかかる人は避難） 高齢者等避難	レベル4（全員避難） 避難指示	レベル5 緊急安全確保
いつ何をやるか	 日中の避難	(例) 避難準備を始める (例) 避難開始	(例) 避難完了	レベル5になる前に必ず避難を完了しましょう
	 夜間の避難	(例) 避難準備を始める (例) 避難開始 (例) 避難完了		